

# 巻 頭 言

別府大学日本語教育研究センター長

松 田 美 香

別府大学日本語教育研究センターは2009年4月に設立され、今年で9年目を迎えます。研究のための『別府大学日本語教育研究』も本号で第9号となります。

本年度も「日本語教育講演会」を開催し、今回は立命館大学大学院言語教育情報研究科教授の有田節子先生をお招きし、「日本語の階層構造を意識した日本語文法教育を考える」と題して、これまで理解や説明が難しかった点を階層構造によって整理・理解できるという、言語学的な視点からの日本語教育について、ご講演をしていただきました、昨年度に引き続き、研究活動も活発です。今回も本紀要には学外の2名の先生方からの御寄稿が掲載されることとなり、研究の面でも引き続き成果を出すことができました。

第2次オリエンテーションにおいても、昨年度秋に交流した国東市立旭日小学校に再びお呼びいただき、11月に交流会および「美術合同授業」を行いました。県内各地の小学生と本センターの留学生、本学の美術系コースの学生、さらに国際交流に興味を持つ留学生上級生が力を合わせて美術作品を作り上げるという、昨年度を踏襲しつつ、今回は旭日小学校のある国東半島で豊富にとれる「キノコ」をモチーフにした作品を準備・制作しました。これには、国際言語・文化学科の芸術系の学生2名が企画から加わりました。また、旭日小学校の先生方の作ってくださった楳木のオブジェに全員の作品を飾ることもできました。前年度のことを覚えてくれた小学生もいて、出会いからとても良い雰囲気の中で交流することができました。

交流を申し出てくださった阿南校長先生をはじめ、旭日小学校の皆様、関係各位の御協力の賜物と心より感謝いたします。

これも前年度から引き続きですが、本学での日本語教育が、諸外国と日本との「懸け橋」につながっていくようにと願ってやみません。学習者の個性や可能性を尊重して、その成長に寄与するものでありつづけるために、努力を惜しまず邁進していきたいと思えます。

最後に、本号の刊行にあたってさまざまな形で御支援をいただいた方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成30年3月31日